８．地層と大地の変動

＜地層のでき方＞

かたい岩石が気温の変化や暴風のはたらきでもろくなることを風化と

いい、岩石がけずられることを侵食という。

これにより、３種類の粒ができる。

粒の大きい方から　れき→砂→泥　という。

この３種類の粒が川などの水の流れによって下流に運ばれることを

運搬といい、最終的に平野や海岸などにたまることを堆積という。

＜地層の観察と堆積岩＞

地層が地表に現れている場所を露頭という。

地層のつながりを知るための目印となる層をかぎ層という。

地層をつくった堆積物がおし固められてできた岩石を堆積物という。

れき　　　　　　　 →　　れき岩

砂　　　　　　　 　→　　砂岩

泥　　　　　　　 　→　　泥岩

火山灰など →　　凝灰岩

生物の死骸など　 　→　石灰岩（うすい塩酸で二酸化炭素発生）

チャート（うすい塩酸で気体発生しない）

＜地層からわかることと大地の変動＞

化石（地層中に残された生物の死骸や生活の跡）

　　　示相化石・・・地層が堆積した当時の環境が分かる

　　　示準化石・・・地層が堆積した年代が分かる



断層　　　　　　　　　　　　　しゅう曲